



ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*

日本では亜種ジョウビタキ *P. a. aureus* が冬鳥として渡来する^{※1}が、1983年に北海道糠平で、繁殖記録もある^{※2}。

四国でも各地で普通であり、おおねね 10月中旬頃渡来し、翌年4月下旬頃に去る^{※3}。香川県でも平野部の農耕地や公園などから讃岐山脈まで、県内各地の雑木林で越冬する。

本種は越冬中は、雌雄それぞれに縄張りを確保する。個人の庭など、毎年雄(または雌)が継続して縄張りを確保するポイントがあるが、その中には同じ個体が戻ってきている場所もあると思われる。

※1 「日本鳥類目録第6版」、日本鳥学会、2000

2 「日本の野鳥590」、真木広造&大西敏一、2000

3 「四国の野鳥誌」石原保、1982

この冬、ジョウビタキとお馴染みになりますか？

ジョウビタキはとても身近な冬鳥です。縄張りに執着するため同じ場所で観察できることが多く、また一度隠れても、待っていれば同じ木に戻ってくることも良くあります。一度見つけることができれば、あとはいつでも出会えます。ぜひこの冬はお近くの公園などで、じっくりとジョウビタキと付き合ってみてください。



▲雄 Photo◎城戸崇雄

頭頂部は灰色、背と翼は黒色で、翼には白い斑がある。腹部は橙色。「ヒッヒッヒッ」と鳴き、よく尾を上下させる。



▲雌 Photo◎城戸崇雄

雄と異なり、全体に淡い褐色。腹部はうっすらと橙色がかかる。翼に大きな白斑があるのは雄と同じ。